

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成24年6月28日(2012.6.28)

【公開番号】特開2011-132229(P2011-132229A)

【公開日】平成23年7月7日(2011.7.7)

【年通号数】公開・登録公報2011-027

【出願番号】特願2010-270287(P2010-270287)

【国際特許分類】

A 6 1 K 31/7076 (2006.01)

C 0 7 H 19/167 (2006.01)

A 6 1 P 25/02 (2006.01)

A 6 1 P 25/04 (2006.01)

A 6 1 P 29/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 31/7076

C 0 7 H 19/167

A 6 1 P 25/02 1 0 1

A 6 1 P 25/04

A 6 1 P 29/00

【手続補正書】

【提出日】平成24年5月10日(2012.5.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

疼痛予防、治療、或いは改善のための医薬の製造におけるスポンゴシンまたはその医薬上許容される塩の使用。

【請求項 2】

疼痛が痛覚過敏である、請求項 1 に記載の使用。

【請求項 3】

痛覚過敏が神経因性疼痛である、請求項 2 に記載の使用。

【請求項 4】

疼痛が知覚神経に損傷を引き起こす疾患に起因するか、または関連する、請求項 1 ~ 3 のいずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 5】

腸の疼痛、膵臓疼痛、骨盤/会陰の疼痛、背痛、背部の疼痛、胸痛、心臓の疼痛、骨盤の疼痛 / P I D、関節疼痛（例えば、腱炎、滑液包炎、急性関節炎に関連する）、首の疼痛、産科の疼痛（分娩或いは帝王切開）、癌疼痛、H I V 疼痛、幻肢痛、術後疼痛、慢性神経因性疼痛、脊椎手術の失敗による疼痛（failed back surgery pain）、身体的外傷後の疼痛（銃弾による傷、交通事故、或いは火傷起因の疼痛を含む）、瘢痕組織疼痛、急性ヘルペス帯状疱疹の疼痛、急性膵炎の強烈な疼痛（癌）、ヘルペス後神経痛、或いは三叉神経痛の予防、治療、或いは改善のための、或いは、糖尿病性神経障害、多発神経障害、線維筋痛症、筋・筋膜疼痛症候群、骨関節炎、関節リウマチ、坐骨神経痛、或いは腰部神経根障害、脊髄の狭窄症、側頭下顎の関節障害、腎疝痛、月経困難症 / 子宮内膜症に起因するか、または関連する神経因性或いは他の疼痛の予防、治療、或いは改善のための、請

求項 1 ~ 4 のいずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 6】

痛覚過敏が炎症性疼痛である、請求項 2 に記載の使用。

【請求項 7】

疼痛が炎症性或いは免疫性疾患に起因するか、或いは関連する、請求項 1、2、或いは 6 いずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 8】

腸の疼痛、背痛、癌疼痛、線維筋痛症、術後疼痛の予防、治療、或いは改善のための、或いは、骨関節炎、関節リウマチ、リュウマチ様脊椎炎、痛風性関節炎のような関節炎状態、或いは喘息、慢性閉塞性肺疾患、線維症、多発性硬化症、敗血症、敗血症性ショック、内毒素ショック、グラム陰性ショック、毒素性ショック、出血性ショック、成人呼吸促迫症候群、脳性マラリア、組織移植拒絶反応、癌の二次的疼痛、H I V、慢性肺性炎症性疾患、ケイ肺症、肺性肉腫、骨吸収の疾患、再灌流損傷、移植片対宿主の拒絶反応、多発性硬化症、重症筋無力症、同種移植の拒絶反応、感染症起因の発熱および筋肉痛、A I D S 関連症候群 (A R C)、ケロイド形成、瘢痕組織形成、クローン病、潰瘍性大腸炎およびパイレシス (pyresis)、過敏性腸症候群、骨粗鬆症、脳性マラリア、細菌性髄膜炎、或いはアンホテリシン B 治療、インターロイキン - 2 - 治療、O K T 3 治療、或いは G M - C S F 治療の副作用に起因するか、或いは関連する、炎症性或いは他の疼痛の予防、治療、或いは改善のための、請求項 1、2、6 または 7 のいずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 9】

スポンゴシンが他の鎮痛剤と併用される、請求項 1 ~ 8 のいずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 10】

他の鎮痛剤が、オピオイド受容体アゴニスト或いは部分アゴニスト、シクロオキシゲナーゼ阻害剤、ナトリウム、或いはカルシウムチャネル修飾薬、選択的セロトニン再取り込み阻害薬 (S S R I)、或いは神経因性疼痛を治療する剤である、請求項 9 に記載の使用。

【請求項 11】

スポンゴシンまたはその医薬上許容される塩を医薬上許容される担体、賦形剤または希釈剤と共に含む、ヒト対象に投与するための医薬組成物。

【請求項 12】

対象において徐脈、低血圧、或いは頻脈の副作用を起こすスポンゴシンまたはその医薬上許容される塩の最小血漿濃度の 5 分の 1 ないし 1000 分の 1 の血漿濃度を与えるスポンゴシンまたはその医薬上許容される塩の用量を含む、ヒト対象に投与するためのスポンゴシンまたはその医薬上許容される塩を含む医薬組成物。

【請求項 13】

用量が対象 1 k g あたり 6 m g 未満のスポンゴシンまたはその医薬上許容される塩である、請求項 12 記載の医薬組成物。

【請求項 14】

用量が対象 1 k g あたり少なくとも 0 . 0 1 m g のスポンゴシンまたはその医薬上許容される塩である、請求項 12 または 13 記載の医薬組成物。

【請求項 15】

420 m g 未満のスポンゴシンまたはその医薬上許容される塩の用量を含む、ヒト対象に投与するためのスポンゴシンまたはその医薬上許容される塩を含む医薬組成物。

【請求項 16】

用量が少なくとも 0 . 7 m g のスポンゴシンまたはその医薬上許容される塩である、請求項 15 記載の医薬組成物。

【請求項 17】

用量が 7 ~ 70 m g のスポンゴシンまたはその医薬上許容される塩である、請求項 15 記載の医薬組成物。

【請求項 18】

スポンゴシンまたはその医薬上許容される塩、および他の鎮痛剤を含む、複合製剤。

【請求項 19】

他の鎮痛剤がオピオイド受容体アゴニスト、或いは部分アゴニスト、シクロオキシゲナーゼ阻害剤、ナトリウム或いはカルシウムチャネル修飾薬、選択的セロトニン再取り込み阻害薬、或いは神経因性疼痛を治療する剤である、請求項 18 に記載の複合製剤。

【請求項 20】

他の鎮痛剤がガバペンチンである、請求項 19 記載の複合製剤。